

## 平成30年度 第2回消費生活モニター意見交換会報告

日時 平成30年11月2日(金) 午前9時30分～午後12時00分

会場 川崎市産業振興会館12階 経済労働局会議室 出席者 14人

次第 1 開 会

2 あいさつ

3 講 演

テーマ 「食品衛生からみた食の安全について」

講 師 健康福祉局保健所食品安全課 食品安全担当 西村 光世さん

4 意見交換会 ファシリテーター

健康福祉局保健所食品安全課担当係長 早川 貴浩さん

健康福祉局保健所食品安全課主任 西村 光世さん

5 総評・まとめ

6 ふりかえりシートの記入

7 閉 会

- はじめに健康福祉局保健所食品安全課 西村さんから「食品衛生からみた食の安全について」をテーマに講演していただきました。

### 《 講演概要 》

1 DVD「何を食べたら良いか？

考えるためのヒント」鑑賞

(制作：内閣府食品安全委員会事務局)

2 DVDのおさらい

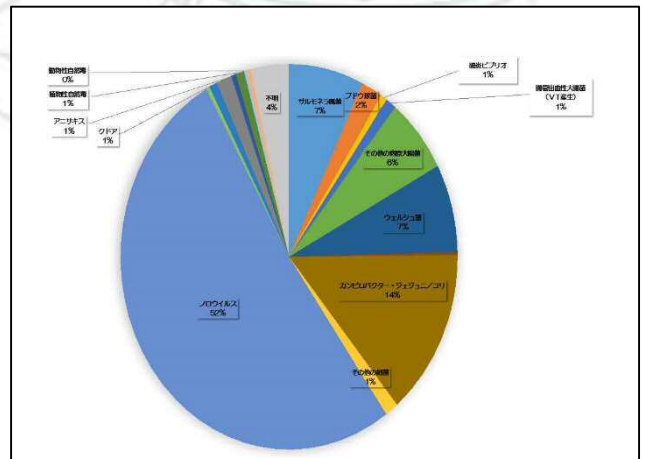
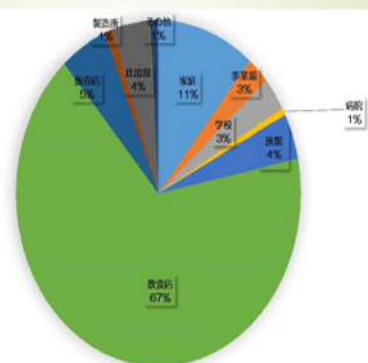
3 食中毒予防のヒント

- ・ 食中毒の発生状況と主な原因
- ・ 食中毒予防の3原則
- ・ 食品衛生に関する行政の動向

講師 西村さん



原因施設別事件数 (平成29年)



●続いてA・Bの2グループに分かれ、食の安全について意見交換を行いました。



### 主な話題

- TPP発動で食糧自給率が低下することへの危惧
- 東日本大震災に関連する食品の安全性への不安。情報提供の必要性について
- 消費者にわかりやすい食品表示の追求
- マイクロプラスチックの問題
- 食事への気遣い
- 輸入食品の安全性
- 子どもへの指導（知識・情報の提供）
- 買い物の時に気を付けていること
- 正しい情報のわかりやすい提供

### 《グループ意見発表》

#### Aグループ

2011年3月11日に起きた東日本大震災に関連することが心配される中で、何が大きいかというと放射能が漏れているということですよね。放射能が海に流れて魚が汚染されてその魚を食べるということ。グループ内で同じ年に生まれた子もいるということでしたので、魚を食べる将来的にその汚染がどのように影響するのかがということが、食品の安全性として懸念しているという意見がありました。それとマイクロプラスチックですが、プラスチックが海に流れて、海で魚が食べてそれを人間が食べ、どのように影響するかが懸念されるという意見もありました。現在ものすごく世の中の動きが早くなって、プラスチックがどんどん排除されるような動きがあり、ストローやスプーンにも使われるプラスチックも排除する動きがありますので、将来どうなるのかといった意見もありました。

TPP についてですが、報道などで伝えられている TPP が12月に発効するということが、輸入食品が入ってくるということを考えると、農薬は現在でも食品の安全において懸念されることですが、TPP の発効によって輸入食品が増加して、農薬が増えてきてしまうのではないかと話もありました。農業に限らず、各分野にわたるものですので、これを考えるのは必要なことで



あると思います。このようなことから食品の安全性をどのように考えていかなければいけないかを、皆さんが話をする事もそうですけれど、色々な情報、最終的に危ないかどうかを考えて行政としてはこういうモニター制度や色々な委員会などを設置して情報を提供することも必要であると考えます。農業に関しては、自給率も問題で、日本の食料の自給率は現在40%、それが16%くらいに落ちるだろうと言われているので、自分の生活を守るためにはどうしたらよいかを考えていかないといけません。

### Bグループ

みなさん年齢・性別を越えて、色々な体験をお話しいただきまして大変盛り上がりました。食の話から脱線しつつ、お買い物の仕方まで、別の方向に行きそうだったんですけど、たいへん和やかに楽しくお話をしておりました。出た話題としては、最初に添加物についてですが、輸入品の少し色のきついものですか、大丈夫なのかなという話で、海外で生活されていた御経験のある方がたくさんいらっしゃいましたので、講師の方の質問も出たんですけども、空港で抜き打ちで検査をしていることがわかりました。今インターネット社会で、個人輸入などチェック機能のないところでやりとりしたのものについては個人の自由であり、チェックができていないということで、自己責任という結論でした。飲食店などに行く時に、判断が難しいということや、スーパーでお買い物の時にじっくり表示を見るということも実際できていないというか、あまりされている方もいらっしゃらなくて、どうなんだろうというお話とか、その流れで遺伝子組み換えと品種改良というのは何が違うのかということも、講師の方からお話しただいて、遺伝子組み換えというのはまだ結果が出ていないので、将来どうなるのか、副作用的なものがどういうふうに出るのかまだわかっていないというお話などを教えていただきました。皆さん和やかで、色々ためになるお話を聞けまして良かったと思います。漠然とした不安について、結局どうすればいいのかということはここでは結論は出なかったんですけども、また次回こういう集まりがあれば皆さんでお話する機会になればと思います。ありがとうございました。



### ※リスクコミュニケーションとは

リスクに関する情報について、消費者、事業者、行政そして研究者などが意見交換を通じて相互理解を図る事を「リスクコミュニケーション」といいます。

●最後に本日参加していただきましたファシリテーターから講評をいただきました。

健康福祉局保健所食品安全課担当係長 早川さん

私たちの職場は事務仕事が多くて、区役所と違って窓口がないんですね。そうすると市民の方と直接話し合える機会がなくて、今回この場に出席させていただいて市民の方の生の声を聞いて皆さんがどういったところに目を向けて、どういったところに問題を感じていらっしゃるのかわかりました。すべてをすぐに川崎市だけで解決するというのはなかなか難しいところがあると思うんですけども、今日は、私がこれまで考えていなかった目線からのお話もあって大変勉強になりました。今日頂いた意見やこの経験を今後の行政施策に生かしていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

健康福祉局保健所食品安全課 西村さん

私は B 班の方に参加させていただいたんですが、食品や健康について皆さんがとても気を付けていらっしゃるって、御家族のため、お子さんのため、そして御自身のために食品を購入して食事に取り入れたいと考えてこちらに参加されているのがよくわかりました。私たち行政としましてもやはり皆さんが正しい情報を求めていることが伝わってまいりましたので、これからも食品の衛生や安全について、必要な情報を皆さんに適宜出していけるようにしていきたいと考えました。どうもありがとうございました。

●講座終了後、ふりかえりの時間として、各自「ふりかえりシート」に今日体験して思った事などを記入していただき、閉会となりました。

### ◎意見交換会講演で一番印象に残った事は？（抜粋）

- ・食べることはリスクが伴うという意識の持ち方は、私にとって新鮮な気づきでした。幼い子を持つ親として日々食品安全をマネジメントする立場の人間が持つべき大変有意義な内容だったと思います。
- ・食中毒の原因菌についての詳しい説明が大変参考になりました。またウィルスは食品の中では増えず、体内に入ってから増えることは初めて知りました。細菌とは対応が異なることも参考になりました。
- ・食中毒の予防法について。細菌とウィルスでは対応方法に多少違いがあることを今日初めて知りました。そもそも細菌とウィルスでは食中毒の起こし方が違うことも知ることができて良かったです。
- ・細菌・ウィルスのビデオ説明で、日頃生活で接することがありそうなハザードがよくわかりました。これから注意して調理しようと思いました。
- ・食中毒の具体的説明を体系的にさせていただいて、大変勉強になりました。最終的には自己責任ではあるものの、判断する上での情報の提供、共有化が大切であると感じました。飲食店での食中毒の多さが印象に残りました。

※今回冒頭で鑑賞いただいた DVD の内容は下記 URL で確認する事ができます。  
<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg1979.html>

